## 三池に学ぶ婦人集会

# たたかいを誓う

### 東ドイツ婦人も参加

今年も、三池にまなぶ婦人集会がやってきた。四回めのことは、三池労組結成三十周年記念集会と重なったこともあって、かくべつ重い意義をもった集会となった。

全国から、百一人にのぼる婦人が結集した。（ほかに赤ちゃんを含め、幼な子十二人）なかには北海道の釧路からやってきた荒木博子さんなど、今年六十三歳というおばあさんまでがあった。

十三日、組合の記念集会参加。十四日、午前中全体会議で午後分科会。十五日、総括会議をもってすべての日程を終った。

集会には、たまたま熊本まできたという、ドイツ民主共和国（東ドイツ）の駐日代理大使夫人＝カーリン・イエーガン女史、ドイツADN通信社特派員夫人＝エーデル・トラウトーマン女史までがかけつけてくれ、国際色が花をそえた。

集会はまたアピールを採択したが、同アピールはその一節で述べている。

「この三日間私たちは、三池の主婦の皆さんや全国の仲間と交流しながら、職場や地域で本気で闘えばこそ、家族みんなが仲間とともに団結しなければならないことに気づきました。人間としてあたりまえのことをしてきただけです、と話される三池主婦会の皆さんは、資本の攻撃と権利ハク奪に本気でたちむかう夫をささえながら、先進的・階級的な団結をつくりだしてこられました」

参加者は、最後に婦人解放と労働者解放の日まで闘い、学びつづけることを誓った。

▽　△

婦人集会の全体会議

## 女の目

# 夫の停年に思う

主婦会港務　雅

「停年まいよ」と、友人から注意を受けてまだ四、五年あるからと、のんびり考えていてはいけませんよ。三年ぐらいまたたく間に過ぎて、気づいたときは停年前数カ月だった、になりますよ。

社宅も、いつかはでなければならないでしょう。

停年になってからだとあせりがでて、人にだまされやすいから、家のことは早めに考えなさいよ」と、友人から注意を受けてまだ四、五年あるからと、のんびり考えていてはいけませんよ。三年ぐらいまたたく間に過ぎて、気づいたときは停年前数カ月だった、になりますよ。

社宅も、いつかはでなければならないでしょう。

停年になってからだとあせりがでて、人にだまされやすいから、家のことは早めに考えなさと思うのはなぜか。あるいは、停年退職後夫が、厚生年金受給資格取得までの四年間の〝収入ゼロ〟ということが、心に重くきました。そのうえこれから、天井知らずの物価高の世の中を収入ゼロの四年間どうやって生きてゆけばいいのでしょう。失業者百万人といわれる世の中に、停年で退職する夫のためのどんな仕事があるのでしょうか。

厚生年金を退職と同時に五十五歳から受けられたら、とひとしお痛切に思うこの頃です。

× ×

## あの声、この声……

### 小浜北と原万田から—

# ナマのレポート

これは、十三日の組合結成三十周年記念集会のあと、夕方から開催されました小浜北地域分会・主婦会分会共催の祝賀会で拾った、あの人この人の声です。はたしてどんな感想を、語り合ったことでしょうか。

## 小浜北地域分会から

これはその日の夕開かれた、小浜地域分会の祝賀会からのレポートです。

×

**長野幸雄さん**（50歳）　CO患者の自分には、今日見た映画に万感迫って胸がいっぱいでした。

**妻・キミエさん**（48歳）　苦しいことばかりの連続で、うれしいことといえば子どもたちが大きくなったことでしょうか。これからも苦しみの連続でしょうが。

**田中カツエさん**（49歳）　写真や記念品の展示を見て、昔のこと思い出して……。私が病気になったとき、夜・昼皆さんから介抱していただき、ありがとうございました。三池なればこそです。

**工藤光重さん**（36歳）　災害死した親父にかわって採用され坑内にはいった第一日目に、胸までつかるどぶのなかで働かされ、炭鉱労働の大変なことを知りました。その頃はいわれるままでしたが、抵抗闘争の火のついたのは、大爆発のあとからです。

**妻・正子さん**（27歳）　三池闘争中は中学生で、炭っ子グループにはいり、ホッパーへ激励にいったことが思い出に残っています。

**山崎さん**（停年退職）　大爆発の数日前に、会社の講堂のなかにたくさんお棺が積んであるのを見て、「こりゃ大変だ」と伝えてくれた人がいます。当時は、人が次つぎに殺されていましたから、三井とは気色の悪い奴だ、と思ったのでしたが……。

**本袈裟助さん**（41歳）　九・二八坑内火災被災CO患者となってつづく、日常の保安闘争こそが大切だと思います。あのとき、ただ生きたいと思いつつ、宮浦連絡坑道までたどりついたのでした。

**妻・美佐子さん**（37歳）　子ども一人では、主人がさびしい思いをしていると思いますが、私自身せいいっぱい働いて、家計をささえていかなければならないので……。

**滝沢平八郎さん**（停年退職）　三池闘争前は、払長で採炭にがんばってきました。就労後はあとむき。一番の取り頭だったのが、差別されて最低になってしまい、苦しみ抜きました。

**月野貞信さん**（37歳）**妻・真紀子さん**（33歳）　三川図書館につとめていたとき、図書台帳から若い人が脱落してゆくのを知ったときのさみしさ。そして今日は、夫婦でこの会合に出ていることに誇りを感じています。

**野田嘉次郎さん**（CO患者・停年退職）**の奥さん**　社宅のなかまに囲まれているときは気がつかんじゃったですが、外来の身になって見ると、CO患者のおとうさんが具合でも悪くなったらどうするか、との不安がいっぱいです。

**谷崎千守さん**（46歳）**夫婦**　はじめて家庭もって、小浜北社宅に移ってきたとき、名前も知らないなかまがきて、黙ってこつこつと竹で裏のヘイをつくってくれたときの愛情を決して忘れません。

**葛西さん**（停年退職）　PTAが分裂して、大人が子どもの世界まで真っ二つにひき裂いてしまったことが忘れられません。今もそのままですね。

（あと紙数の制限から、余儀なく割愛しました）

×

三川指導部・月野貞信　取材

阿具根参議、古賀組合長と盆栽見物

## 展示会にぎわう

組合結成三十周年記念集会に際し、同じ市民館で、組合は闘争記念品や組合員・家族の文化面の制作品、さらには丹精こめて育てあげられた盆栽などの展示会を開催した。

会場には、この日集会に参加した人ばかりでなく、道ゆく人もやってきたが、「炭鉱労働者に、こんな一面があるとは思いも寄らなかった。また闘争記念品を見て、三池の歴史の重みをしみじみ思いました」と、感動を語る人もあった。

## やっぱり

# 長生きせんなん

### 原万田地域分会から

次は、こんどの記念集会をめぐるいろいろの人の声—

**地域団結集会から**

—社青同の青年たちに、記念集会の中で席が空いているので「座れ」とすすめたが、その青年はステージから目を離さず「私たちは若いですから」といって、最後まで座らなかった。三池の火が力強く広がっていることを感じた。（退職の石原繁さん）

—元三池労組の教宣部長だった小西武市さん（四日市在住）が顔を見せると、集会全体が大歓声に包まれたのを見て、婦人集会オルグが涙を浮かべて、「これが連帯でしょうか」。

—三池の人たちには、ひとことひとことの中に、仲間を思うやさしさがある。それがエネルギーになっているのを感じて、人と人とのつながりを大切にしなければ……とつくづく思います。（婦人集会参加者）

—まだまだ長生きせんなん。OBも闘わんならできん。つらかのオ。アッハッハッハ。（ある退職者）

**記念集会々場から**

—（関東不知火会のメッセージと、その署名の中に旧友の名前を見つけだして）転々として、相当苦労したっじゃろ。二へんめの住所までは交通もじとったばってん、もう切れてしもうとった。元気でいてくれて、よかったよかった。（組合員）

—闘争記念品の一つひとつに思いだすのオ。俺もあん頃は、若かった。ポリ公は、見たばかりで腹ンにえくり返りよったばん。（退職者）

—花火が鳴って、ホッパーに歩いとったら、若か者は、後ろに追いやりよったばん。（退職者）

—闘争記念品の展示は見るだけで、体の中がかっかしてくる。（退職者）

—（三池闘争の写真に見入りながら）退職勧告状は、ヘリコプターで山ノ上クラブ（当時の会社側の一拠点）に投げ返したデモのときは、雨がひどくて。赤ン坊は背中に、三つの子は手をひいて、雨ガッパがわりに赤旗ば体にぐるぐる巻きたい。思い出すと、涙のでるばかり。（主婦会員）

取材—三川指導部・石田益男

## おわび

組合員・家族、それに全国のCO・遺族守る会の皆さんみいけの本号は、組合結成三十周年記念行事のあとをうけて、いそぎの間に特集の形となりました。

あわただしいなか、心細かなところまでお伝えできなかったことがくやまれます。たとえば大切なことですが、こんど組合が制作した映画〝三池の闘い〟など、ふれることもできずじまいでした。今後不十分な点は補ってゆきますので、とりあえずおわびします。

—編集部